



久保井 永三  
(未来)

**地域負担での事業実施は適切か**

**問** 上河内地域において、住民が長年にわたり楽しみ親しんできた産業祭などへの交付金が、26年度から廃止された。また、梵天祭りは安全確保などへの側面的支援として交付金が出ているが、26年度は消費税のアップなどにより、運営は厳しくなることが予想される。

このような事業を地域の負担で行うことが理想的といえるのか聞く。

**答** 旧上河内町・河内町の補助金・交付金などについては合併協定書で「原則として宇都宮市の制度に統一する。ただし統一に時間を要する補助金等については、旧町の従来からの経緯、実情等に配

慮しながら調整を図る」とされており、上河内地区の産業祭などは、上河内地区まちづくり協議会が中心となり、事業の方向性や内容などについて議論を重ね、今年度から地域住民が参加しやすい事業を立ち上げ「協働の地域づくり支援事業補助金」も効果的に活用しながら、地域負担で実施することとなった。

また、梵天祭りは、約300年の歴史を持つ市を代表する伝統的な祭りであり、広く市外、県外から毎年8万人が訪れる全市の観光イベントであることから、安全対策などについて引き続き支援していく。



▲梵天祭りの様子

**その他の質問項目**

- ①道路管理・河川管理
- ②技術者、技能者の育成と入札
- ③災害時の体制と災害後の対応
- ④少子高齢化社会の影響と対策
- ⑤放射性物質を含む指定廃棄物

**素早い災害対応で市民に安心を**



藤井 弘一  
(統一)

**問** 大雨による八幡山公園東側急傾斜地の崩壊について聞く。

①災害対策では、指揮系統を統一し、組織横断的に連携するため、危機管理監を中心にワンストップ体制を確立すべきと考えるがどうか。

②同様の危険が懸念される市内各地の調査を速やかに、安全対策を計画的に行うべきでは。

③この区域には、一部擁壁工事が施行していない崖地がある。崩落事故の未然防止に向け対応は、

**答** ①今回の大雨では、災害警戒体制を敷き、危機管理監をトップに警察や消防、県などの防災関係機関をはじめ、庁内各

部局からの各種情報の集約や統括を行い、人命優先で様々な指示を行った。災害時に被害を最小限に止めるためには、ワンストップ体制による情報の集約、統括が重要であるため、今回の事例を検証しながら、災害想定訓練に取り入れるなどより一層体制の強化に努める。

②危険箇所52箇所について引き続きパトロールを行い、その結果に基づき、県に対し整備促進を要望していく。

③早急に専門的な調査を行い、崩落の未然防止に向け必要な対策を講じていく。



▲現地の様子

**その他の質問項目**

- ①健康づくりと市民の幸せ
- ②自治宝くじと自主財源の確保
- ③博物館群構想の復活と北西部文化の森創造圏の取り組み
- ④教育問題

**市議会の用語解説**

**定例会**

定期的に開かれる会議のこと。年4回（宇都宮市議会では毎年3月、6月、9月、12月）開かれる。

**代表質問**

会派を代表して行う質問のこと。宇都宮市議会では、3月定例会において行われる。

**開会**

議会を開き、法的に活動できる状態となること。議会の開閉に関することは、議会が「これを定める」ことになっている。

**会派**

主義・主張を同じくする議員によって作られる団体。宇都宮市議会には現在10の会派がある。

**閉会**

議会を閉じ、法的に活動能力のない状態とする。議会を閉じ、法的に活動できる状態とする。

**通告**

議会の会議で議題とされる案件などについて議員が発言を求める場合に、あらかじめ議長に発言の趣旨などを告げ知らせること。代表質問・一般質問や討論などで行われている。

**会期**

議会が議会の権限を行使し、法的に活動できる期間。会期の決定は、会期ごとに会期の始めに議会が自主的に議決で定める。

**付託**

議会の議決を要する事件について、議会の議決に先だって詳しく検討を加えるために、それぞれ担当の委員会に審査を委託すること。

**一般質問**

議員が市政全般について、事務の執行状況や将来の方針等の報告・説明を求め又は質問すること。定例会でのみ行われる。

